

# 校内の推進体制づくり



## 【ねらい】

GIGAスクール構想実現に向けた校内の推進体制づくりについて理解する。

## 【ポイント】

- ① 推進体制づくりに必要な3つのポイント
- ② 県内の取組状況から見た推進体制づくり
- ③ 推進体制づくりとICT活用について

【活動】各学校における推進体制を見直してみましょう。

# 推進体制づくりに必要な3つのポイント

## 各学校への取材などからわかる各学校の課題意識

～1人1台端末活用について抜粋～

- ・活用について各教員の裁量に任されている
- ・情報管理担当者の負担が大きい
- ・端末利用のルールと指導の徹底が必要

3つのポイント

視点1  
リーダーシップと組織体制の整備

視点2  
校務の情報化と授業外での活用

視点3  
組織的なスキル向上につながる研修の充実

- ・情報共有が限定的で効率化できていない
- ・学年や学校間などで連絡調整できる仕組みがない
- ・地域や保護者との効率的な情報共有に課題がある

- ・教職員のスキルの差が大きい
- ・教科間でICT活用のばらつきがある
- ・ICT活用について学ぶ研修時間の不足

※2021年度 GIGA教材、研修講座アンケートから

# 県内の取組状況から見た推進体制づくり①

## 視点1 リーダーシップと組織体制の整備

1人1台端末活用を教育目標や研究テーマに位置づけ、推進体制を構築。

管理職や教務主任、研究主任のリーダーシップ

学校の実態に応じたICT活用についてのビジョンを普及

視点1の取組の整理

学校全体として前向きな取組と風通しのよい環境

校務分掌の再編や情報管理係の分担を意識

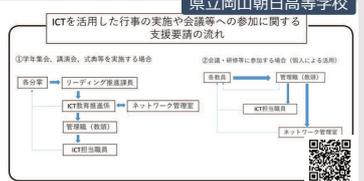
# 県内の取組状況から見た推進体制づくり①

## 視点1 リーダーシップと組織体制の整備

1人1台端末活用を教育目標や研究テーマに位置づけ、推進体制を構築。

### ■ 校内支援体制の整備 活用の促進

- ICT活用における支援体制の構築**
- ・4月当初は、学校全体におけるICTの活用について戸惑う場面もあったが、推進体制を構築してからは、スムーズな活用が行えるようになっている。
  - ・支援要請は、リーディング推進課に相談することからスタートし、ICT教育推進係、ネットワーク管理室（ハード系）とも連携し、取組を進めている。
  - ・各種配信のボタンに応じた準備と対応を行っている。



### ■ 校内組織の工夫 連携の促進

- 校内組織の工夫で、効率化と活性化を実現**
- ・技術面から支援する『教務課情報係』、授業改善から支援する『教務課企画係』を設置し、各年次2名ずつを配当して強化したことで、学年間の情報共有がやりやすくなり、円滑に業務が進行するようになった。また、転勤などで担当がいなくなることによるトラブル発生リスクが軽減された。
  - ・年度当初に自由参加の形で“自主研修会”を開催した。基本的なChromebookの操作から、授業実践の紹介まで、丁寧に説明しており好評だった。また、併設する中学校の先生も多数参加することができた。



# 県内の取組状況から見た推進体制づくり②

## 視点2 校務の情報化と授業外での活用

業務を効率化し負担を軽減することで働き方改革につながる。効果的な情報共有を実現する。

ペーパーレス化や集計作業の効率化によるメリットの共有

効果的な情報共有の恩恵を体験し、効率のよい仕組みを整備

視点2の取組の整理

授業の周辺部分の活用から実践し自信をつける

学校全体で利用し、活用のコツを互いに教え合う風土を構築

# 県内の取組状況から見た推進体制づくり②

## 視点2 校務の情報化と授業外での活用

業務を効率化し負担を軽減することで働き方改革につながる。効果的な情報共有を実現する。

### ■ 情報共有と可視化 情報の共有

- 職員朝礼も時間短縮。連絡事項をドキュメントで共有し、いつでも見える、書き込める。**
- 職員全員がアクセスできる共有ドライブを作成し、ドキュメントを使用して職員朝礼を行っている。ドキュメントには、連絡事項等を打ち込むことだけでなく、共有したり、資料のリンクを貼り付けたりするなどしており、効率のよい仕組みを整えている。



### ■ 情報発信とSNSの活用 情報の発信

- 積極的な情報発信**
- 校内の取組や様子について積極的な情報発信を行っている。また、寄宿舎を持つ支援学校として保護者からも情報発信へのニーズが高い。学部間で分担し、学校の様子については、ホームページ、ブログ、Facebook、メルマガジン（要登録）で、毎日昼夕の給食のメニューについてはTwitterで紹介している。



# 県内の取組状況から見た推進体制づくり③

## 視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

活用スキルの差を埋める。ICT活用指導力の育成。

教職員のニーズや児童生徒の課題に即した研修

OJTを活用するなどの人材育成の一環としての研修

視点3の取組の整理

授業実践を学校全体で共有し活用の幅を広げる

目的に応じた、短時間で効率的な研修形態や資料の工夫

# 県内の取組状況から見た推進体制づくり③

## 視点3 組織的なスキル向上につながる研修の充実

活用スキルの差を埋める。ICT活用指導力の育成。

### ■ 学校のニーズに即した研修 目的に応じた研修

- 課題に即応する校内研修の実施**
- ・ICTの利用に関して日々の先生方の困り感を吸い上げ、校内で研修ができるように準備をし、タイムリーな研修を全教職員に行っている。同僚が自分の工夫を講師として広めることを基本としている。
  - ・5月に、生徒の学びを止めないため、教職員全員を対象とした説明動画を作成する研修を実施した。1人1台端末を活用した、すぐに活用できる内容で、学校を休んでいる生徒へ授業動画を配信するなどの活用が進んでいる。



### ■ 授業改善への取組 全体共有で授業改善

- 校内の取組を定期的に共有することで、自身の授業等へ活かせる仕組みづくり**
- 「使っていく」ことを厭わないために、終礼等の短い時間を活用して実践紹介し、共有する時間を設けている。時間をかけることなく、情報を全体で共有することは、授業で活用するヒントとなり、有効である。また、学期に1回程度期間を設定し、自身の授業での取組を表に打ち込み、まとめている。

学年	取組	実践内容
1年	タブレット活用	1人1台端末活用による授業改善
2年	タブレット活用	1人1台端末活用による授業改善
3年	タブレット活用	1人1台端末活用による授業改善
4年	タブレット活用	1人1台端末活用による授業改善
5年	タブレット活用	1人1台端末活用による授業改善
6年	タブレット活用	1人1台端末活用による授業改善

